

2013（平成 25）年 4 月 26 日

雲南市議会

議長 深田徳夫 様

島根原子力発電対策特別委員会視察報告書

雲南市議会

島根原子力発電対策特別委員会

委員長 堀 江 眞

1 日 程 2013（平成 25）年 4 月 25 日（木）9：30～17：30

2 視察先 島根県 竹島資料室
中国電力 島根原子力発電所

3 参加者 全議員

4 対応者 竹島資料館 島根県総務課総務課 山崎 祥 管理監（竹島対策室長）
島根原子力発電所 常務取締役 島根原子力本部長 古林行雄 ほか

5 視察内容 別紙参照

《竹島資料館》 一般向け啓発ビデオを視聴、山崎管理監から県の取組みについて説明を受け、その後、館内展示を見て回った。

《島根原子力館》 昼食休憩時に各自で、館内の展示を見学した。

《原子力館別館》 会議室で概要説明を受けた。主な内容は下記のとおり。

- ・原発から 30 k 圏内の人口は東海、浜岡に次いで 3 番目に多い。
- ・1号機は国内で 5 番目の原発で昨年 39 年目を迎えた。
- ・2号機の出力 8 2 万 kW は島根県 1 県分の消費電力に当る。
- ・価格、安定性、環境の点から電力の 3 分の 1 を占める方針だったが、中国電力は 6 分の 1 である。

《運転訓練シミュレーター室》 1、2号機用と 3号機用があり、前者はアナログ的で、後者はデジタル的になっており、特に異常時の対応の訓練に力を入れているとのことであった。

《原子力発電所見学》 現場視察は 2 班に分かれ行った。2号機と 3号機、免振棟や防波堤等の安全対策施設を、順次見学した。

- ・発電所構内は、カメラの撮影は事前登録 1 名 1 台のみが許され、被写体によっては撮影できないものもあった。
- ・構内の出入り時には、事前に提出した名簿と各自の身分証明書（運転免許証）との照合、金属探知機による検査を受け、2号機の出入り時に再度検査を受けた。
- ・2号機では、放射線積算計と専用のヘルメット、手袋、靴下、靴、つなぎ服を身につけて視察した。
- ・以前は一般の見学者も見学できたが、アメリカの 9・11 テロ以後、規制が厳しくなったとのこと。
- ・島根原発で働いている中国電力の社員は約 6 0 0 名で、関連会社や工事関係者を合わせると約 2, 0 0 0 人、最大時には 4, 0 0 0 人に上ったとのこと。
- ・3号機の総工費は 4 6 0 0 億円、それにテロと震災対策の新たな基準で 4 0 0 億円かかる

とのこと。

- ・質疑応答では、廃炉の技術はあるか、との質問に、チェルノブイリや東海村、浜岡原発の経験もあり、技術はあるとの回答。廃炉にかかる年数、人員はどれくらいか、との質問に、放射能の低減に10数年、廃炉作業に10年、合わせて30年ぐらいかかり、相応の人員も必要、との回答であった。

以上